

徳島県企業局経営計画における令和5年度進捗状況及び評価（一覧表）

経営目標Ⅰ 社会貢献の加速

【 】：前年度評価

取 組		K P I 重要業績評価指標	令 和 5 年 度 の 進 捗 状 況	評価
① 自然エネルギー導入の加速				
多様な自然エネルギーの導入促進 【事業推進課】				
1	・市町村と協働した小水力発電の導入支援	市町村を含めたチーム体制による導入支援 2件以上／年	・美馬市及び上勝町と協働した小水力発電の導入に向けて、平時の自家消費や災害時にも活用が可能な事業化プランにおいて、採算性向上のため、工事費、維持管理費の低減方法を検討するなどの導入支援を行った。 ・三好市と協働した小水力発電の導入に向けて、補助金等の情報提供や候補地点における流量観測を行うなどの導入支援を行った。 【実績】 チーム体制による導入支援： R5 3件 協議、資料提供、流量観測による導入支援	A 【A】
2	・地域資源に着目した民間事業者等への自然エネルギー導入支援	先進的な導入事例の調査研究	・県内の大規模バイオマス発電所の現地視察を実施した。 ・次世代太陽電池の研究、開発を行っているメーカーを訪問し、開発状況や導入時期等についての協議を実施した。	A 【A】
		情報発信 2件以上／年	・県主催の市町村向け説明会（市町村環境・廃棄物担当課長会議（書面開催））に会議資料（再生可能エネルギー導入支援に係る徳島県企業局の取組について等）を提供した。 ・長安ロダム資料館（ビーバー館）において、木屋平ピコ水力発電実証機の展示による情報発信を行った。 【実績】 調査研究と情報発信：R5 2件	A 【A】
				総合 A 【A】
3	・市町村・民間事業者等への技術支援	ワンストップ技術支援の実施	・民間事業者等6者に対して小水力発電等に関する情報提供を行った。	A 【A】
		関係部局と連携し、市町村・民間事業者等向け説明会の実施	・県主催の市町村向け説明会（市町村環境・廃棄物担当課長会議（書面開催））に会議資料（再生可能エネルギー導入支援に係る徳島県企業局の取組について等）を提供した。	A 【A】
				総合 A 【A】

取 組		K P I 重要業績評価指標	令 和 5 年 度 の 進 捗 状 況	評価
② 「既存ストックの有効活用」と「施策連携」による地域社会への貢献				
スマート回廊を核とした地域振興 【経営企画戦略課、総合管理推進センター】				
4	・カヌー・SUPの拠点施設の有効	カヌー・SUP拠点	・4月2日に「お花見SUP体験」を実施し、20人が参加した。	A

	活用	施設を活用したツアーリズム催行回数 R4 1回 R5 4回 R6 4回 R7 4回 R8 4回	・R3年より整備を進めていた川口ダム湖カヌー・SUP施設が完成したため、R5年5月14日に愛称発表会及びSUP体験を実施し、16人が参加した。 ・6月17日に徳島大学とのモニターツアーとしてSUP体験を実施し、10人が参加した。 ・7月29、30日に「とくしま自然エネルギー探検隊夏のバスツアー」において、SUP体験を実施し、延べ29人が参加した。 ・9月24日に川口ダム湖ブラックバス釣り大会において、SUP体験が実施され、40人が参加した。 ・11月28日、29日にSUPもみじ釣り体験in川口ダム湖が開催され、10人が参加した。 【実績】 ツーリズム催行回数：R5 6回	【A】
		川口ダム湖を活用したウォータースポーツ体験者数 R4 20人 R5 100人 R6 100人 R7 100人 R8 100人	・4月2日に「お花見SUP体験」を実施し、20人が参加した。 ・R3年より整備を進めていた川口ダム湖カヌー・SUP施設が完成したため、5月14日に愛称発表会及びSUP体験を実施し、16人が参加した。 ・6月17日に徳島大学とのモニターツアーとしてSUP体験を実施し、10人が参加した。 ・7月29、30日に「とくしま自然エネルギー探検隊夏のバスツアー」において、SUP体験を実施し、延べ29人が参加した。 ・9月10日に「木頭杉丸太走り大会」が開催され、32人が参加した。（来場者は300人以上） ・9月22日から26日にかけてドイツ・ニーダーザクセン州カヌー訪問団が川口ダム湖で那賀高校カヌー部とスポーツ交流を実施し、延べ19人が参加した。 ・9月24日に川口ダム湖ブラックバス釣り大会において、SUP体験が実施され、40人が参加した。 ・11月28日、29日にSUPもみじ釣り体験in川口ダム湖が開催され、10人が参加した。 【実績】 ウォータースポーツ体験者：R5 176人体験	A 【A】
				総合 A 【A】
5	・日本科学未来館、あすたむらんど等との連携	企画展示数 5回以上／年	・9月17日に遠隔会議アプリZoomを活用した発電やエネルギーについての遠隔授業を行った結果、9名の参加があった。 ・6月10日から7月16日までの日程で、全国科学館連携協議会の協力により「環境DNA博士と水辺の生き物を調査せよ！」の巡回展示を実施した結果、延べ722名の観覧があった。（その他の企画展示等を含め合計5回実施） ・あすたむらんどから講師を招いた星空観望会を8月26日、3月25日に開催し、合計44名が参加した。 【実績】 企画展示等：R5 6回実施	A 【A】
6	・川口エネ・ミュー10周年事業の実施	開館10周年記念に向け新事業の検討及び準備、実施	・大阪関西万博の次年度が開館10周年を迎えることから、万博を絡めたSDGsに関するイベント開催について検討を行うとともに、万博テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」についてICT授業を実施し、4名が参加した。	A 【A】
森づくりの支援 【経営企画戦略課】				
7	・ダム水源地での地域が進める森づくりを支援	公有林化支援面積（累計） R4 882ha R5 962ha R6 1,042ha R7 1,122ha R8 1,202ha	・水力発電事業に係る県営発電所が所在する町において、公有林化を促進し、良質な水資源の確保を図るとともに、地域の環境整備や地域貢献に資するため「ダム水源の森を守り育てる事業」を実施した。 ・事業実施内容 予算額：R5 50,000千円 内 容：川口ダム又は棚野ダムの上流域の森林で、間伐等の適切な管理ができていない又は今後この恐れのある森林を対象として、次に掲げる事業に対し補助金を交付する。 （１）公有林化取得支援事業 （２）森林整備等支援事業	A 【A】

			・その結果、那賀町等が実施した87haの公有林化取得を支援した。 【実績】公有林化支援面積：R5 87ha、累計 1,098ha	
8	・町等が実施する森林の除間伐・植林等を支援	森林整備（除間伐・植林等）支援面積 100ha以上／年	・No. 7「ダム水源の森を守り育てる事業」における「森林整備等支援事業」に対し、補助金を交付することにより、那賀町等が31haの森林整備を実施した。 ・町は森林環境譲与税を活用した森林整備を優先的に実施している。 【実績】森林整備支援面積：R5 31ha	C 【A】
地域振興事業の支援 【経営企画戦略課】				
9	・水源地域で実施する地域の魅力づくりや環境保全事業を支援	支援団体数 15団体以上／年	・「電気事業に係る施設」が所在する町において行われる、地域の活力や魅力づくり等の推進活動、環境教育及び環境保全活動を支援する「ダム水源地サポート事業」を実施した。 ・事業実施内容 予算額：R5 6,000千円 内 容：県営発電所等が所在する町及びその水源地域（美波町は赤松地区に限る）で実施される次に掲げる事業 Ⅰ型 （１）水源地域におけるイベント等の実施により、地域の活性化又は交流人口の拡大を図る事業 Ⅱ型 （１）ダム及び河川の保全に寄与する事業 （２）自然エネルギー及び環境保全学習を通して、次世代を担う人材育成を推進する環境教育事業 ・Ⅰ型14団体、Ⅱ型で2団体の合計16団体に補助金の交付決定を行った。 【実績】支援団体数：R5 16団体	A 【A】
ダム水源地域の河川環境改善 【事業推進課】				
10	・地域鮎のブランド化やイベント開催による交流人口の増加	稚魚放流にあわせたイベントの開催 3回以上／年	・那賀川上流3漁協が主催の放流体験事業を各地域の子供達と一緒に実施した。 【実績】イベント開催：R5 3回	A 【A】
局有施設の有効利用 【施設基盤整備室】				
11	・新川口寮の多面的活用	多目的スペースの地域開放、サテライトオフィスの設置	・R5.8月に新川口寮の建設工事に着手した。 (R3～R4：新築設計・給水管設計、敷地造成工事) (R5～R6：新築工事)	A 【A】

取 組		K P I 重要業績評価指標	令和5年度の進捗状況	評価
③ 戦略的な情報発信の推進				
SNS等の各種媒体の活用 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
12	・企業局事業の理解促進と水源地域の交流人口拡大に向けたSNS等による情報発信	SNS等による情報発信 年100回以上	・川口エネ・ミューやダム水源地サポート事業にて実施するイベントについて、事前周知と開催結果の発信を図り、人の目に触れる回数を増やした。 ・YouTube「川口エネ・ミューチャンネル」において、自然エネルギーの学習機会創出を図った。 ・ケーブルテレビでのミュージアムCM放送やX（旧Twitter）、フェイスブック等による情報発信を適宜行った。 ・5月14日に実施した川口ダム湖カヌー・SUP施設の愛称発表会が県広報番組「旬感あわだより」に取材され、民放テ	A 【A】

			テレビで放送された。 県広報番組「あわりボ」で川口ダムが特集され、ケーブルテレビで放送された。 【実績】 記事掲載回数：R5 101回 アクセス数：R5 Facebook 3,742件、X 88,558件 R4 Facebook 20,496件、Twitter 154,577件 R3 Facebook 4,719件、Twitter 89,959件 R2 Facebook 12,104件、Twitter 112,562件 R1 Facebook 14,146件、Twitter 60,918件	
県民理解の促進 【経営企画戦略課、総合管理推進センター】				
1 3	・水素を初めとする多様な自然エネルギーの学習機会の提供	川口エネ・ミュー年間延べ体験者数（バーチャル含む） R4 18,000人 R5 18,300人 R6 18,600人 R7 18,900人 R8 19,200人	- 企業局事業や、自然エネルギーに対して県民の理解を得るため、ダムや太陽光発電施設等の見学会や学習会を行った。 7月29、30日、10月14日、3月9日に開催した「とくしま自然エネルギー探検隊バスツアー」において、SUP、ドローン体験等ができるイベントを実施した結果、合計93名の参加があった。 - 自然エネルギーに関するICT授業を実施したほか、「川口エネ・ミューチャンネル」での動画配信を随時実施した。 【実績】 川口エネ・ミュー体験者数：R5 21,245人	A 【A】
1 4	・水力・太陽光発電所、工業用水道の見学会による事業PR	企業局施設見学会実施 10回以上／年	- スマート回廊施設見学会は、5月26日から3月24日まで16回実施し、合計68名の参加があった。 8月に川口ダム5回、日野谷発電所2回の見学会を実施したところ、延べ30人の参加があった。 - 工業用水ユーザーの希望により、11月27日、2月7日に吉野川北岸工業用水道浄水場及び総合管理推進センターにて見学会を実施し、延べ8名の参加があった。 【実績】 見学会実施回数：R5 25回	A 【A】
1 5	・ICTを活用した県内小中学校での出前授業（アウトリーチ）の実施	eブックの制作	R4年度に制作した学習教材（eブック）を活用し、出前授業を実施した。	A 【A】
		環境学習などの出前授業の実施 15回以上／年	環境や自然エネルギーの大切さを学ぶとともに、ミュージアムの入館者増へ繋げるため、徳島県内の小学校及び学童クラブなどで出前授業を行った。 【実績】 出前授業：R5 33回開催 参加者1,102人	A 【A】
				総合 A 【A】
1 6	・企業局の森づくりを情報発信	「エネ・ミューの森」等でのイベント実施数 3回以上／年	- H29年度に取得、整備した森林体験エリアを活用し、10月14日、3月9日に開催した「とくしま自然エネルギー探検隊バスツアー」において、のこぎり体験や間伐体験を実施した結果、合計64名の参加があった。 9月9日に廃材を利用した木工体験、11月4日に自然を使った遊びなどのネイチャーゲームを実施した結果、20名の参加があった。 【実績】 イベント実施数：R5 4回実施	A 【A】

経営目標 2 安全安心の確保

取 組		K P I 重要業績評価指標	令 和 5 年 度 の 進 捗 状 況	評価
④ 大規模災害を迎え撃つ、老朽化対策及び事前復興の取組				
南海トラフ巨大地震対策の加速 【経営企画戦略課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
1 7	・工業用水道管路の耐震化の推進	第2次管路更新計画の実施 (阿南) R7 20% R8 40%	・阿南工業用水道において、第2次管路更新計画として「幸野配水支管・辰巳配水支管」の耐震化に向けた詳細な調査、測量業務や用地交渉を実施した。 また、P C 送水管において漏水が発生し、現地調査を実施した結果、P C 送水管の更新工事が必要となったため、測量・設計業務等を実施した。	A 【A】
		管路更新優先度評価の実施	・継続的に耐震化事業を行うため、管路の「優先度評価」及び「試掘調査による老朽度確認」を5年毎に実施している。 この評価結果に基づき「管路更新計画」を策定する。 ・実施年度：H28、R3、R8予定	A 【A】
				総合 A 【A】
1 8	・川口ダム施設の耐震化の推進	耐震化の実施(ゲート巻上機の補強)	・水車発電機内部点検手入れ実施後のR7年度以降に、川口ダム付属施設の耐震化対策を実施する。	A 【A】
老朽化対策の計画的推進 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
1 9	・日野谷発電所大規模改修による長寿命化・強靱化対策の実施	大規模改修の計画的推進	・「最適な設備更新」と「発電能力の増強」の実現に向けた基礎資料を作成するため、構築物現状診断業務（R4～R5）を実施した。 ・「日野谷発電所大規模改修等プロジェクト検討会議」を3回開催し、各課題について検討を行った。	A 【A】
2 0	・企業局設備に係る長期工事計画の策定及び計画に基づく設備更新	電気、工水、駐車場事業の長期工事計画の見直し	・「工業用水道事業」及び「駐車場事業」について、長期工事計画の見直しを行い、R6年度からR15年度までの10か年の長期工事計画を策定した。 （電気事業は、R4年度に策定済み）	A 【A】
		設備の更新	長期工事計画に基づき、実施した主な内容 ・吉野川北岸工業用水道では、徳島空港線の西延伸事業に伴い、支障となる今切配水本管の移設工事を施工した。 ・吉野川北岸工業用水道では、3，4号取水、3，4号配水ポンプ設備改良及び内部点検手入れ他工事、2，3号取水電動機内部点検手入れ工事を施工した。 ・阿南工業用水道では、管路更新計画として、新たにP C 送水管の更新事業に着手した。	A 【A】
				総合 A 【A】
渇水対策の推進 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
2 1	・地下水送水設備の長寿命化	計画的な設備等の修繕等	・老朽化した設備の計画的な修繕等を実施した。 (R4-R6：第1地下水送水設備取水、送水ポンプ盤取替) (R5：第2地下水送水設備計装設備補修) ・老朽化した設備の計画的な修繕等を計画した。 (R6-R7：第1地下水送水設備受変電設備取替)	A 【A】

取 組		K P I 重要業績評価指標	令和 5 年度の進捗状況	評価
⑤ 危機管理体制の強化				
大規模自然災害を見据えたBCP等の見直しと各種訓練の実施 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
2 2	・ B C P、応援協定、事前復興マニュアル等の見直し	新たな災害に対応したBCP等の見直し	・「徳島県企業局災害対策要綱（添付資料）」の改定を実施した。 ・農政局から水資源機構への吉野川下流域農地防災事業承継に伴い、「被災時の緊急分水に関するパートナーシップ協定書」について、農政局と協議を実施。	A 【A】
2 3	・メガソーラー電力や農水管連結設備を活用した防災・事故復旧訓練等の実施	訓練の実施 7回以上／年	・以下の各種防災・事故復旧訓練を実施した。 ○防火防災訓練(10/ 4 消火設備取扱訓練・自衛消防訓練、10/26 オイルフェンス敷設訓練(勝浦)) ○ 8/25 工業用水道管路想定故障事例研修 ○10/23 電力系統事故復旧訓練 ○11/28 工業用水道応急復旧工事研修会（支援業者） ○ 1/17 徳島県図上訓練に合わせた相互応援協定に基づく支援要請訓練 ・「災害時における和田島太陽光発電所の電力供給に関する協定」に基づき、小松島市と訓練を実施した。 ○ 1/17 電力供給要請の情報伝達訓練 ○ 1/30 電力供給訓練（自立運転切替操作） 【実績】訓練・研修会：R5 7回実施	A 【A】
発災時の応援協定等を有効に機能させるための訓練の実施 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
2 4	・四国4県及び鳥取県との相互応援協定、建設業及び設備業協会との応急復旧工事協定の活用	訓練の実施 3回以上／年	・1/17の徳島県図上訓練に合わせ、建設業及び設備業協会との応急復旧協定に基づく支援要請訓練を実施した。 ・1/17に徳島県図上訓練に合わせ、鳥取県との相互応援協定に基づく支援要請訓練を実施した。 ・1/17（情報伝達）、1/23～24（実地）に四国4県の相互応援協定に基づく訓練を実施した。 【実績】訓練：R5 3回実施	A 【A】

取 組		K P I 重要業績評価指標	令和 5 年 度 の 進 捗 状 況	評価
⑥ 適正な施設の維持管理とＤＸ実装による工事、維持管理業務等の効率化				
「企業局業務のスマート化」の推進 【事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
2 5	・ A I ・ I o Tを活用した点検業務のスマート化	Webカメラ・Wi-Fi環境の導入拡大	・勝浦発電所に施設状況をモニタリングするWebカメラ、Wi-Fi環境を導入した。	A 【A】
		管路漏水検知システムの実装・活用	・今切第一配水支管において漏水検知システムの試験運用を開始した。	A 【A】
				総合 A 【A】
2 6	・設備の保守管理等でのドローン（水中ドローン含む）の活用	ダム・発電所等における点検時のド	・工業用水の配水池等の施設点検に水中ドローンを活用した。（2件）	A 【A】

		ローン活用件数 (R2からの累計) R4 5 件 R5 8 件 R6 9 件 R7 10件 R8 11件	・発電所建物外壁状況の施設点検に空中ドローンを活用した。 (1 件) 【実績】 点検時のドローン活用件数 (累計) : R5 12件	
		ドローン操縦者の確保 (操縦者数) R4 5 名 R5 6 名 R6 7 名 R7 8 名 R8 9 名	・ドローン操縦技能の習得のため、民間のドローンスクールを受講した。 【実績】 ドローン操縦者 (累計) : R5 6 名	A 【A】
				総合 A 【A】
設備の機能維持、長寿命化 【事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
2 7	・保安規程・保守基準に基づいた計画的な点検の実施及びDXの導入に併せた規程・基準の適宜見直し	点検件数 年度計画の100%実施	・運転保守基準に基づき、定期的な点検 (914件) を実施した。 【実績】 点検件数 : R5 914件 年度計画 (914件) の100%実施 (R4 922件) ・長期工事計画に基づき、予防保全に必要な改良及び修繕工事等を実施した。	A 【A】
		規程、基準の見直し (適宜)	・設備の設置・更新状況、重要度・信頼性に基づき、保安規程、保守基準の見直しを行った。	A 【A】
				総合 A 【A】

経営目標3 経営力の強化

取 組		K P I 重要業績評価指標	令和 5 年度の進捗状況	評価
⑦ 未来を切り拓く人づくりと組織づくり				
働き方改革の推進 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
28	・電子決裁システムの利用促進	利用率 毎年100%	・電子決裁システムの改修による利便性の向上、業務のさらなる見直し等により、電子決裁システムの利用促進を図り、決裁の迅速化・テレワークの推進・移動時間の削減・データの利活用などによる「業務の効率化」と「生産性の向上」を推進した。 【実績】取得率：R5 99%	B 【B】
29	・職員のモチベーションを高める働きやすい職場環境の浸透	男性職員の配偶者の出産補助休暇の取得率 毎年100%	・特定事業主行動計画の推進及び「魅力ある職場環境づくり宣言」の実施など、職員誰もが働きやすい職場環境づくりやワークライフバランスを推進し、2人が出産補助休暇を取得した。 【実績】取得率：R5 100%	A 【A】
		男性職員の育児参加のための休暇の取得率 毎年100%	・特定事業主行動計画の推進及び「魅力ある職場環境づくり宣言」の実施など、職員誰もが働きやすい職場環境づくりやワークライフバランスを推進し、2人が男性職員の育児参加のための休暇を取得した。 【実績】取得率：R5 100%	A 【A】
				総合 A 【A】
新たな取組の推進に向けた組織体制の強化 【経営企画戦略課、事業推進課】				
30	・計画的な採用による人材補強	電気、機械職の継続採用枠の確保	・R5年度は、引き続き計画的な採用を実施し、人材補強を図るために電気職3名、機械職1名を採用した。	A 【A】
31	・新たな課題に対応するための検討チームの設置	他部局及び若手職員を含めたタスクフォースを設置し、課題を検討3課題以上／年	・日野谷発電所大規模改修等プロジェクト検討会議に設置している3部会（計画検討部会、設計・工事検討部会、経営検討部会）において、各課題に対する検討を行った。 ・徳島県自然エネルギー電力活用検討プロジェクトチーム(事務局：脱炭素推進室)に参加し、課題について協議を行った。 ・能登半島地震の教訓を踏まえた防災対策についての検討部会（断水対策、通信途絶対策、停電対策、道路啓開計画策定等協議会）に参加し、課題について協議を行った。 【実績】TF設置・課題検討：R5 3件	A 【A】
活発な人事交流による幅広い視野と新たな発想を持った「人材育成」 【経営企画戦略課】				
32	・他部局、他機関との積極的な人事交流	本局への新規配置 年1名以上	・本局へ機械職2名の新規配置を行った。 【実績】本局への新規配置：R5 2名	A 【A】
		他部局等との人事交流の実施 年1名以上	・総務省（機械職1名）、市町村（那賀町、電気職1名）、グリーン社会推進課（電気職1名）、水・環境課（機械職1名）、営繕課（電気職1名）との人事交流を引き続き実施した。 【実績】他部局等との人事交流：R5 5名	A 【A】

				総合 A 【A】
技術伝承による現場力と技術力の強化 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
3 3	・若手職員育成、次代を担う職員への技術伝承、事業運営に必要な資格取得・研修の計画的実施	次代職員への知識 ・技能の引継ぎ	・年度当初に「転入者（新採）研修」を実施するとともに、通年で「現場操作訓練」、「事故復旧訓練」を実施した。 ・日常業務の中で「現場での点検作業や工事監督を活用した職場内研修・教育（O J T）」を実施した。 ・プレゼン能力の向上のため企業局技術発表会で7名が発表し、優秀者を表彰した。	A 【A】
		電気主任技術者資格等の計画的取得	・各種講習会への参加、受講などにより、事業運営に必要な技能習得や電気主任技術者3種（2名）などの資格を取得した。	A 【A】
				総合 A 【A】
現場からの業務改善の徹底によるコスト意識の醸成 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室、総合管理推進センター】				
3 4	・業務と維持管理費等の効率化	現場職員と幹部職員との業務改善等に係る意見交換の実施 年2回以上	・日野谷発電所大規模改修等プロジェクト検討会議に設置している3部会（計画検討部会、設計・工事検討部会、経営検討部会）のメンバー構成において、それぞれ幹部職員が入り、各会議の中で意見交換を実施した。 【実績】意見交換年2回以上：R5 9回	A 【A】

取 組	K P I 重要業績評価指標	令 和 5 年 度 の 進 捗 状 況	評価
⑧ 脱炭素社会の実現に向けたGXの推進			
水力発電設備の最大限活用 【事業推進課、総合管理推進センター】			
3 5	・日野谷発電所大規模改修に合わせた出力の増強	発電力増強の計画的な推進 ・「最適な設備更新」と「発電能力の増強」の実現に向けた基礎資料を作成するため、構築物現状診断業務（R4～R5）を実施した。 ・「日野谷発電所大規模改修等プロジェクト検討会議」を3回開催し、各課題について検討を行った。	A 【A】
3 6	・川口・勝浦発電所の発電能力の最大限活用	最大取水量の弾力的運用や高効率ランナ導入による発電力増強 ・関係機関との協議等を進め、発電力増強の可能性について検討を実施した。	A 【A】
多様な自然エネルギーの導入促進 【事業推進課】			
3 7	・地域資源に着目した自然エネルギー導入検討	先進的な導入事例調査等による導入可能性検討 ・県内の大規模バイオマス発電所の現地視察を実施した。 ・次世代太陽電池の研究、開発を行っているメーカーを訪問し、開発状況や導入時期等についての協議を実施した。	A 【A】

取 組	K P I 重要業績評価指標	令 和 5 年 度 の 進 捗 状 況	評価

⑨ 経営資源の有効活用				
電力システム改革への対応 【事業推進課】				
3 8	・ 売電収入の安定的な確保	県民利益の最大化に向けた契約手法の確立	・ 国の動向や電気事業関連の情報収集及び検討を実施した。 ・ 公募型プロポーザルの方向で入札仕様を決定した。	A 【A】
3 9	・ 社会情勢等を見据えた最適な契約方法や市場の動向を調査	各種会議等での情報収集、意見交換回数 4 回以上／年	・ 他県と電力システム改革について、意見交換により、情報収集を図った。 ・ 今後の電力需給や様々な売電形態について、小売電気事業者等との意見交換会を実施した。（5 回実施） 【実績】 意見交換回数：R5 6 回実施	A 【A】
未売水の低減対策 【経営企画戦略課、総合管理推進センター】				
4 0	・ 新規需要の開拓や雑用水としての利用拡大等による契約水量の増大	契約有収率 （契約水量／給水能力） R4 74% R5 74% R6 75% R7 75% R8 76%	・ 吉野川北岸工業用水道において契約水量100m3／日の増量があった。 ・ 既存ユーザの増量見通しや要望について、アンケート調査や企業訪問等（15社）を実施した結果、両工業用水道ともにR7年度に増量する見込み。 【実績】 契約有収率：R5 73%	B 【C】
駐車場事業の経営健全化 【経営企画戦略課、総合管理推進センター】				
4 1	・ 民間ノウハウを活用した駐車場サービスの向上	指定管理の更新	・ R5年 3 月14日に指定管理の申請があった1 団体とR5年 4 月から 5 年間の基本協定書を締結した。 ・ 指定管理者により、施設の利用促進やサービス向上に資する事業（自主事業）としてカーシェアリングやカイロ無料配布キャンペーン等を実施した。	A 【A】
4 2	・ 駐車場利用者の利便性や安全・安心の向上等を図り、利用台数を確保	利用台数 20万台以上／年へ回復 R4 18万台 R5 18.5万台 R6 19 万台 R7 20万台 R8 20.5万台	・ 指定管理者において、阿波おどり練習用夜間定期割引キャンペーン及びカイロ無料配布キャンペーンを実施した。 ・ R5年度の利用台数はR4年度と比べ約2万5千台増加し、コロナ禍前のR元年と比べても同水準まで回復してきている。 【実績】 利用台数：R5 利用台数194,662台	A 【B】
4 3	・ 藍場町地下駐車場へのA I ・ I o T導入による機能向上	車番認識システムの導入	・ R3年度までのアンケート結果等から、ゲートレス、チケットレス、キャッシュレスとなる車番認識システムの導入を進め、R5年2月24日から一般利用を開始した。 ・ 利用者から「精算機が少ない」との意見や精算時の混雑を踏まえ、精算機を増設し、R6年 2 月 1 日から一般利用を開始した。	A 【A】
4 4	・ 藍場町地下駐車場エレベータ周辺のモニター設置による局広報及び広告収入の開拓	企業局PR動画の放映	・ R4年度に設置しているデジタルサイネージを活用し、企業局のPR動画を放映した。	A 【A】
		広告収入動画の放映	・ 指定管理者とデジタルサイネージの活用について協議した。 ・ デジタルサイネージを活用し、民間事業者の事業をPRすることを目的に公募を行っている。	C 【A】
				総合 B 【A】
駐車場の利便性向上策 【経営企画戦略課】				
4 5	・ 他施設、イベント等との連携	キャンペーン等の	・ 阿波おどり練習用夜間定期割引キャンペーンを実施した。	A

		実施 年2回以上	・カイロ無料配布キャンペーンを実施した。 ・駐車場の1室を未来創生文化部と連携し、無償によりNPOビレッジとして活用した。 ・松茂駐車場でカーシェアリング事業を実施した。 【実績】年2回以上：R5 2回（キャンペーン）	【A】
局有地の有効利用 【経営企画戦略課】				
46	・工業用水道事業における未利用地への企業誘致	企業誘致の実現	・R4年度から実施している造成工事が完了し、R5年11月28日に民間企業と貸付契約を締結した。	A 【A】
工業用水道会計への財政支援 【経営企画戦略課】				
47	・工業用水道会計の負担軽減による進捗の加速	電気、土地造成事業からの資金融通の実施	・工業用水道事業長期工事計画において、資金需要に応じた資金融通計画の見直しを実施した。 (借入額累計31億円 H24: 2億、H27: 9億、H28: 9億、H29: 5億、R2: 4億、R4: 2億、残債25億円)	A 【A】
資金の効率的運用 【経営企画戦略課】				
48	・有利な運用利率の確保と検討	効率的な資金運用の実施	・金利引合による短期定期運用（3ヶ月定期）により、最も安全かつ有利な資金運用を実施した。 ・資金の流動性確保に努めた。 ・資金運用の研修に参加し、金融の知識を深めた。 ・債券運用を開始した。 (R5購入（額面）：国債7億円、地方債21億4,200万円)	A 【A】

取 組		K P I 重要業績評価指標	令和5年度の進捗状況	評価
⑩ 利用者ニーズの的確な把握				
制度改正等の情報収集・提案 【経営企画戦略課、事業推進課、施設基盤整備室】				
49	・制度改正、規制緩和に向けた政策提言	政策提言の実施及び政策への反映	・一般社団法人日本工水協会から国へ提出する「工業用水道事業施策に関する要望書」において、「管路のダブルルート化や撤去費への補助の拡充」及び「緊急時における水融通の法制化」について提言した結果、R7年度予算への要望（R6年度提出予定）案に一部が反映された。	A 【A】
利用者のニーズ調査 【経営企画戦略課、総合管理推進センター】				
50	・工業用水受水企業訪問(毎年)、アンケート調査によるニーズ把握	企業訪問数 15社以上／年	・受水企業12社及び新規企業3社に対し、企業訪問等を実施した。 【実績】企業訪問15社以上：R5 15社	A 【A】
		アンケートの毎年実施	・アンケート調査（例年実施分）を1月に実施した。（内容は、基礎データ、使用水量見通し等） ・アンケートの結果、工業用水受水企業のうち吉野川北岸工業用水道2社、阿南工業用水道1社の増量計画を確認した。	A 【A】
				総合 A 【A】
51	・駐車場利用者のアンケート調査等によるニーズ把握	アンケートの実施 年1,000人以上	・駐車場事業の指定管理者において、R5年4月～R6年3月の間、藍場町地下駐車場の利用者に対し、アンケート調査を実施した。 ・さらに、「県営駐車場アンケート事業」として、R5年6月～	A 【A】

			R6年3月の間、藍場町地下駐車場及び松茂駐車場の利用者に対し、新たなニーズの掘り起こしのため、キャッシュレスやゲートレスなど新システムの導入に関する内容を一部追加し、アンケート調査を実施した。 【実績】アンケート1,000人以上：R5 1,403人	
		駐車場事業の拡充	・指定管理者により、施設の利用促進やサービス向上に資する事業（自主事業）としてカーシェアリングやカイロ無料配布キャンペーン等を実施した。	A 【A】
				総合 A 【A】
各種媒体の活用 【経営企画戦略課】				
5 2	・SNS等の活用	SNSフォロワー数 100人以上増／年	・企業局SNSを継続し、R5年度にフォロワー数111人が増加した。 【実績】SNSフォロワー増加数：フェイスブック23人増、エックス88人増 R5 Facebookアクセス数:3,742,Xアクセス数:88,558 Facebookフォロワー数：198、Xフォロワー数：838 R4 Facebookアクセス数:20,496,Twitterアクセス数:154,577 Facebookフォロワー数：175、Twitterフォロワー数：750 R3 Facebookアクセス数：4,719,Twitterアクセス数:89,959 Facebookフォロワー数：151、Twitterフォロワー数：640 R2 Facebookアクセス数：12,104,Twitterアクセス数:112,562 Facebookフォロワー数：142、Twitterフォロワー数：519 R1 Facebookアクセス数:14,146,Twitterアクセス数:60,918 Facebookフォロワー数：－、Twitterフォロワー数：360	A 【A】
経営情報の開示 【経営企画戦略課】				
5 3	・第三者が行う会議やホームページでの開示とパンフレット・冊子の発行	決算状況等を会議やホームページで開示 毎年実施	・戦略的経営推進委員会で企業局事業概要や当初予算概要を開示した。 ・企業局ホームページで決算概要、財務諸表、予算概要を開示した。	A 【A】